



「逃げ恥」の星野源が、話題の人に!!

みなさんは「恋ダンス」を覚えていますか？
2016年、星野源さんが作曲した『逃げるは恥だが役に立つ』の主題歌を出演者たちが踊り大ブレイクしましたね。星野源さんはドラマで共演した新垣結衣さんとの結婚発表で今、話題の人になっています。星野源さんは音楽家として作曲やライブをこなしながら、俳優としてもドラマや映画で活躍する一方、その活動をありのまま綴ったエッセイもたくさん出版しています。



やりたかったことは次々と仕事になったが、自分になりたいと思う姿を、追いかければ追いかけるほど消耗し、病魔に襲われ苦しんだ日々。まだ死ねない。これから飛び上がるほど嬉しいことが起こるはずなんだ。

「よみがえる変態」より



<リクエスト本> & <寄贈本>

『ようこそ実力至上主義の教室へ』

衣笠 彰悟著 (MF文庫)

実力さえあれば何でも許される学校ってどう思いますか？

この本に登場する学校は、希望する進学、就職先にほぼ100%応え、実力さえあればなんでも許される楽園のような学校。だけどその実態は、優秀なものだけが好待遇を受ける実力至上主義(不平等)の学校。その学園でDクラスに入ってしまった主人公たちの戦いが始まる！

リクエスト(面白くてみんなが読んだら間違いなく人気になる!)に答えて、3年生が寄贈してくれました。



(全13巻)

『晴れ、時々くらげを呼ぶ』 鯨井あめ著（講談社）

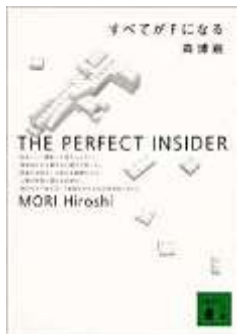
この物語には、夏目漱石から、伊坂幸太郎、朝井リョウ、森見登美彦、宮沢賢治、湊かなえ、村上春樹に加え、様々な小説のタイトルが登場します。本好きな人にぜひ読んでほしい一冊です。

父を亡くしたあと、他者と関わりを持たず、毎日をなんとなく生きてきた「僕」。ある日、屋上で「クラゲ乞い」をする後輩と出会った。世界は理不尽で僕たちは無気力だから。

世界をちょっとだけ変えたかった「僕」と「彼女」と「僕たち」の物語。

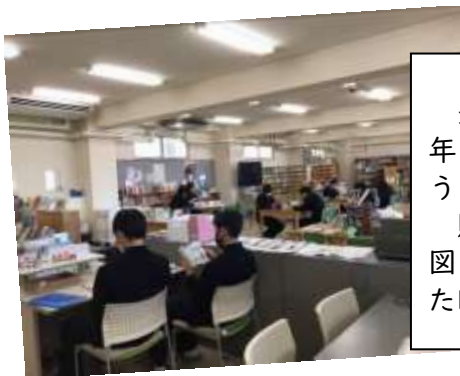


『すべてがFになる』 森 博嗣著（講談社文庫）



孤島のハイテク研究所で、少女時代から完全に隔離された生活を送る天才工学博士・真賀田四季。彼女の部屋からウエディングドレスをまとった死体が現れた。偶然島を訪れていた、N大学助教授・犀川創平と学生・西之園萌絵がこの不可思議な密室殺人に挑む。

名古屋大学の工学博士が、作家としてデビュー、第1回メフィスト賞に輝き、その後作品を発表し人気作家に！



最近はお昼休みに一年生の姿も見かけるようになりました。

賑やかな教室と違い、図書室はゆったりとした時間が流れています。



『最強の独学術』 本山 勝寛著（大和書房文庫）

これからの時代は「独学力」を持った人だけが、勉強でも仕事でも伸び続けることができる。

目標は、実現するためにあるものです。

夢は、叶えるためにあるものです。

なのに、いつも中途半端で終わったり、いつかやるといつて先延ばししたり、自分にはできないと初めからあきらめていないでしょうか？そんなときに頼りになるのが、どんな環境にあっても、どんな目標に対しても、自らが己を高め、自力で道を切り開くことのできる「独学力」です！

（本文より）



『ツベルクリンムーチョ』 森 博嗣著（講談社文庫）



社会からも人からも、いつも多めに距離を取っているベストセラー作家の目から見たコロナ禍の日本とは……。

もやもやしていたことが一気にクリアに見える明快エッセイ100編を収録。人と同じでなくて良い、つながらなくても良い。人生が生きやすくなる言葉に満ちた、深くて楽しい人気書下ろしシリーズ！

『コンビニ人間』 村田 沙耶香著（文春文庫）

「いらっしゃいませー！」お客様がたてる音に負けじと、私は叫ぶ。古倉恵子、コンビニバイト歴18年。彼氏なしの36歳。日々コンビニ食を食べ、夢の中でもレジを打ち、「店員」でいる時のみ世界の歯車になれる。

「普通」ってなんだろう。自分に正直に、真っ直ぐに生きていくことかもしれない。

第155回芥川賞受賞作。



55万部突破「2018年本屋大賞」受賞作

『かがみの孤城』上・下 辻村 深月著（ポプラ社）



いじめ・家庭環境・人間関係……さまざまな事情から居場所を無くした7人の子供達が、「鏡の城」へ。オオカミさまから提示される幾つかのルールと、浮かび上がる謎。なぜ、この7人が選ばれ、この場所に？すべての謎が明かされる時、この物語の隠された顔が見えてくる。

素直に生きるのが難しい現代だけど、受け入れてくれる人、分かり合える人はいる。生きづらさを感じているすべての人に贈る、涙と優しさに溢れた物語。

『日本人なら知っておきたい日本文学』

蛇蔵&海野風子著（幻冬舎）

古典って実は面白い！古典嫌い、古典に苦手意識のある人の先入観を打破するためのマンガです。

言いたい放題の清少納言、ぐるぐる悩む紫式部、伝説になった高給公務員の安倍晴明、脱サラ・フリーランサー兼好法師、夢見るオタク少女の菅原孝標女、きわめつけに番外編は暴走する悲劇のヤマトタケルなどが登場しています。



『スター』 朝井 リョウ著（朝日新聞社）



「どっちが先に有名監督になるか、勝負だな」

新人の登竜門となる映画祭でグランプリを受賞した尚吾と紘。大学卒業後、尚吾は名監督への弟子入りをし、紘はYouTubeでの発信という真逆の道を選ぶ。

受賞歴、再生回数、完成度、利益、受け手の反応——プロとアマチュアの境界線なき今、作品の質や価値は、何をもって測られるのか。新時代のスターとは？